

編 集 後 記

今年の夏は酷暑が続き、熱中症による死者が昨年大騒ぎになった新型インフルエンザによる死亡数を大きく上回る異常事態となった。今年の新型インフルエンザ対策、多剤耐性菌による院内感染の脅威など医療界は次々に多くの課題に対処しなければならない。

本号では丸山先生が基礎研究や病理解剖を主体とした昔の病理医のイメージは大きく変遷し、手術術式や治療法の決定にも大きな役割を果たす病理医の現状を、乳癌を例にわかり易く解説していただいた。木下先生は「機能性消化管疾患」の中で代表的な3疾患の症状、診断、治療について簡潔に報告していただいた。また自ら作成された「出雲スケール」という簡単な問診表が、診断だけでなく治療効果の判定にも有用であることを述べられた。

本号では3編の症例報告が掲載されているが、筆者がどのように診断し、どんな治療方針を選択し、どんな教訓を得たかについて報告されている。症例報告はいつも新鮮で示唆に富むものだ。

乳癌検診や認知症の状況報告では、私の関わっている急性期病院での診療が「医療のごく一部」に過ぎないことを改めて教えてくれた。また退院後「養育支援が必要な家庭」に戻る新生児の報告は、私自身あまり知識がないこともあり衝撃的であった。泉先生は本誌に多くの論文を投稿していただいているが、いつもいろいろな統計データを駆使し、独特の視点で紹介してくれる。

今後とも多方面からの投稿を期待するとともに、医師不足に直面している島根県の医療の再生を心より祈っている。

(K. N)

島根医学編集委員

岩本正敬， 貴谷 光， 錦織 優， 児玉和夫， 葛尾信弘，
森本紀彦， 浅野博雄， 木下芳一， 佐藤比登美， 小林祥泰，
中山健吾， 徳島 武

島 根 医 学

平成22年9月30日発行

発行者 島 根 県 医 師 会
益田市乙吉町
編 集 編集者 岩 本 正 敬

発行所 松江市学園南2丁目3番11号
有限会社 松 陽 印 刷 所